

小宮山豊君出展の写真展鑑賞会報告

原田義則(3組)

10月18日、六本木にある富士フィルムフォトサロン東京(富士フィルム本社の隣)で開催しているグループ展：江口愼一写真楽園作品展「光の森 vol.6」を訪ずれ、小宮山豊君(2組)の作品を中心に鑑賞して来た。

プロの写真家江口愼一氏が主宰するアマチュア写真同好会(写真楽園)は作品展「光の森」をシリーズで開催しているが、今回も小宮山君が出品したため、同期5名(小宮山豊君、上原昇君(2組)、澤崎健一君(3組)、成澤文和君(4組)と報告者)と一緒に鑑賞した。

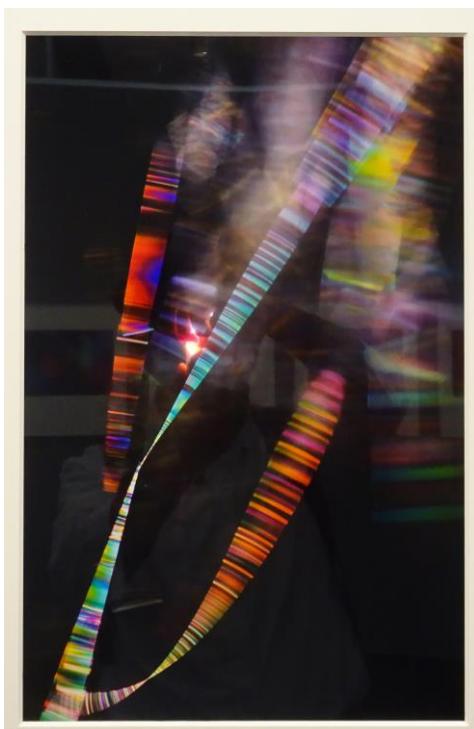
出典作品は主宰者の江口氏の作品を含めて60点近く、9割方はマクロレンズを用いた作品で、「虫の目」的な感覚で楽しめた。

小宮山君の2点の出展作品は何れも蜘蛛の糸を題材にしてのものであった。蜘蛛の糸が太陽光を散乱することで生ずる様々な色と形状を高度なテクニックを用いて芸術的に捉えており、他の出展作品とは一線を画した素晴らしい作品であった。白色の太陽光が包含している様々な色の光をレンズを通して鮮やかに見せてくれるテクニックは驚嘆すべきものであった。写真を趣味とする報告者もマクロレンズ撮影はしばしば行うので試して見たいが、撮影条件の設定は難しそうであった。

鑑賞後、会場近くの東京ミッドタウンにあるイタリアンレストランで会食し、作品に対する感想や同期の仲間達の近況情報を共有して楽しい2時間を過ごした。



小宮山君の作品「弦楽のアダージョ」の前で
左から 成澤、上原、原田、江口愼一氏、小宮山、澤崎



小宮山君の作品
「光のドレープ」